

令和7年10月14日 環境まちづくり委員会（未定稿）

○桜井委員長 次に、二番町地区のまちづくり関連についてです。

本件に関する陳情は、新たに当委員会へ送付された陳情、送付7-29、二番町日テレ跡地再開発における安全・安心等に関する丁寧な説明を求める陳情、送付7-30、二番町の日テレ跡地再開発における地域貢献と加算容積率に関する説明を求める陳情及び継続中の送付6-26、38、39、送付7-5、7、16、17の合計9件です。関連するため、一括で審査することとしてよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○桜井委員長 そのようにさせていただきます。

執行機関から何か情報がございましたら頂きます。

○齋藤翹町地域まちづくり担当課長 それでは、二番町地区の陳情では、附帯決議を踏まえまして、前向きな場づくりを進めていくよう、意見を頂いております、関連して、まず最初に、先月、9月20日に開催しました第2回次世代シンポジウムの概要を説明させていただきます。ファイル番号04、環ま03-1をご覧ください。

実施概要でございます。実施概要でございます、翹町小学校体育館にて、20日土曜日、午後3時から午後7時まで開催しまして、参加者22名、傍聴者33名の合わせて55名の方にご出席いただいております。前回シンポジウムで議論できなかった二番町の日本テレビ計画での懸念事項や心配事を解消することを目的に、区のほか、中立的な立場での司会進行をお願いすべく、ファシリテーター2名、まちづくりの専門的な立場で、心配事等への見解を頂くため、学識経験者のコメンテーターを1名及び事業者である日本テレビに参加いただいております。

次に、当日のプログラムでございます。区から開催趣旨、地区計画の概要の説明などを行いまして、日本テレビからの挨拶を挟み、ファシリテーターの進行の下、心配事の解消を行いました。心配事の解消については、事前に頂いた意見のほか、当日も追加で発言を頂きながら、専門家、事業者、区から回答を進めながら、心配事の解消をするという流れで実施したところでございます。

続きまして、アンケートの結果の概要です。会の終わりに出席者に記入いただいたアンケート結果3点をういながら、会の結果概要を説明させていただきます。

1点目が、当委員会でも周知方法に対する意見を頂いておりますが、地域からも周知方法の意見をもらったところでございます。左の円グラフのとおり、7割近くは区報掲載など、これまでの周知方法が便利といったご意見で、そのほかのご意見として、地域のコミュニティ施設、例えば、いきいきプラザへの掲示などを活用してはどうかといったご意見や、区のLINEの活用なども意見を頂いておりますので、今後の開催に当たって、参考にまいります。

2点目の今回のシンポジウムの満足度でございます。大きく分類しますと、「とても良かった」、「まあまあ良かった」というご意見が7割、「あまり良くなかった」、「全く良くなかった」という回答が約3割の回答と頂いております。下に主な意見を記載してございますが、専門家の交通整理の下で話合いができたという肯定的な意見がある一方で、日本テレビを擁護しているように感じられ、住民の生活実感からは違和感があったとのこと意見も頂いております。また、住民の意見表明の時間がもっと欲しかったというご意見や、心配を抱えられている住民の方のご意見を聞く機会だけではなく、今後の未来を語る場が

欲しかったといったような意見もございました。今回は、心配事の解消に時間配分が多くなりましたが、次回は、未来を語る場の時間も設けていければと考えてございます。

3点目、一番右側の円グラフでございます。今回のシンポジウムが心配事の解消につながったかというご質問でございました。「解消された」、「ある程度解消された」、もしくは、「心配事は特にない」を含めると、約4割でございます——あ、約6割でございます。「あまり解消されなかった」、もしくは、「全く解消されなかった」という回答が4割となっております。下の意見にもございますが、まだ計画も具体化されていない段階で、もやもやがあるといったご意見、心配事の仕分をしたため、決まっていることと、もしくは、そうでないことへの理解が深まったというご意見、まだ計画が具体化していない段階で、なかなか風とか具体的な数値が示せないため、心配事の解消につながらないといったご意見や、決まっていないことも多いことが分かって、逆に心配も増えたというご意見もございました。

区民の方のそれぞれの心配事の内容にも違いがございまして、今回、解消につながったというご意見もある一方で、計画検討段階であることから、具体的な説明ができず、心配ごとの解消につながらなかったといったことも認識してございます。一方で、解消につながらなかったとしても、意見で出てきた心配事が日本テレビに伝わることで、今後の計画づくりに生かされていく場になったということも効果でございまして、日本テレビさんは、これから意見を踏まえながら、計画策定していくこととなります。

今後につきましては、第2回の結果状況を踏まえまして、具体的な計画がないと心配事の解消や明るい未来に向けての施設活用の議論など、これ以上は難しいと認識してございまして、次回は、日本テレビさんから具体の建築計画案を提出してもらって、説明を行う場として、シンポジウムを開始するということをご説明したところでございます。

なお、今回のシンポジウムの結果概要でございまして、今後、公表を予定しておりますが、当委員会もそうですが、都市計画審議会にも報告してまいります。また、結果の周知を活用しながら、今回参加されなかった方々にも、当地区の情報提供の機会としてまいりたいと考えてございます。

補足となりますが、シンポジウム当日の配付資料について、本日の配付資料につけてございます。資料の内容説明は、今までの概要説明をもって省略させていただきますが、構成を説明させていただきたいと思っております。

まず、ファイル番号05、環ま03-2が「番町次世代シンポジウムの開催について」ということで、当日の出席者への会場やプログラムの案内資料となっております。

続きまして、ファイル番号06、環ま03-3及び07、環ま03-4が二番町地区地区計画の概要資料でございまして、こちらは区が説明した概要資料でございまして。

続きまして、ファイル番号08、環ま03-5がこれまでに寄せられた心配事と題してございまして、当日の心配事の解消のために、事前に頂いた意見やこれまでの意見をまとめた整理表でございまして。先ほど説明したとおり、これに基づき、心配事の解消、あるいはさらに会場での意見表明も頂いて進めていったところでございまして。

続きまして、ファイル番号09、環ま03-6、募集時に寄せられたご意見と題してございまして、これが事前に募集されたものでございまして。先ほどの心配事の整理表のベースとなっております。

続きまして、ファイル番号10、環ま03-7、第2回番町次世代シンポジウムアンケートが、当日の感想等収集のために配付したアンケート用紙。

最後、配付資料として、ファイル番号11、環ま03-8、都市計画用語解説が当日の発言で出てくると想定したまちづくりの用語の解説です。

以上がシンポジウムの概要となります。

続きまして、資料がファイル番号12、環ま03-9でございます。

まず、継続審議になっている7件の陳情の概要及び区の出組概要を、ただいまちょっと説明した第2回シンポジウムも踏まえまして、説明させていただこうと思います。

この資料でございますけど、左に陳情番号、件名、陳情の内容の概要、それに対する区の方の考え方となっております。陳情6-26から7-16を除く7-17までは、附帯決議を踏まえまして、シンポジウムの進め方に関する陳情でございます。こちらに関しては、区の出組は、先ほどの説明と重複する部分がございますが、附帯決議を踏まえまして、1月に第1回シンポジウムを開催し、あったらいい未来について、将来像や具体的なアクションなどについて、フューチャーセッション方式という参加者から協調的なアクションを引き出し、協力し合うことにつながっていく手法を活用しながら、前向きに話し合える雰囲気づくりを行いました。一方で、対象となっているエリアが番町地域の広い範囲となっていたことから、二番町の日本テレビ計画に絞って意見を聞いてみたらいいということや、会の形式としてオープンにしたかどうかというご意見を当委員会からも頂いて、第2回では、先ほどの多くの方が参加できる形式で、事前意見募集も頂きながら、二番町の日本テレビ計画をテーマに、懸念事項や心配事を出してもらい、その解消、また、今後の計画への配慮事項を事業者伝える場としたところでございます。

日本テレビは、今後、計画を具体的に作成していく段階になりまして、次は日本テレビに具体的な計画を説明いただき、よりよい計画としていくことや、懸念事項の解消につなげていくような会として取り組んでいくといったところでございます。

なお、一旦除きました陳情7-16については、一部は開発全般に関わるご意見ということで、今後の参考にさせていただくとともに、その他は都市計画手続に関する事項で、既に手続において説明させていただいているといったこと、あと、エリアマネジメントについては、まだ具体的に決まっていない事項であり、今後検討していく事項となっております。日本テレビからの具体的な建築計画の進捗状況も踏まえ、区も検討支援し、日本テレビ、地域と一緒に検討していくこととなります。

続きまして、新規でございました2件の陳情、7-29、7-30についてでございます。

7-29、安全・安心等に関する丁寧な説明を求める陳情については、地区計画の決定の手続で説明等させていただいている容積率の根拠や、上位計画との整合に関するもののほか、第2回シンポジウムで扱ったような住環境に関する心配事や、公園の管理運営の心配事、あるいは治安等への心配事と認識してございます。心配事の解消に当たって、2回目で扱った事項ですので、出席されなかったことも含め、今後、結果の公表の周知、また、次回以降のシンポジウムを通じながら取り組んでまいります。

続いて、7-30、地域貢献と加算容積率に関する説明を求める陳情は4点あり、1から3点目までが地区計画で決定した容積率の根拠や、それに付随する貢献施設の評価の考

え方ですが、これまでの都市計画手続で説明してございますとおり、都の運用基準に沿って算定評価してございます。併せて、専門家会議での検証も踏まえ、決定されたところでございます。最後に、4点目のエリアマネジメントについては、現時点で、先ほど申しましたとおり、具体的な内容は未定であり、今後、区も検討支援しながら、日本テレビ、地域と一緒に検討していくこととなります。

以上で、二番町地区のまちづくりに関する陳情に関連して、区の実施の説明は終わらせていただきます。

○桜井委員長 はい。ありがとうございました。

それでは、質疑を受けます。

○春山委員 私も傍聴させていただいたんですけども、当日。なかなか白熱した、いろんなご意見が皆さんから出たのかなというふうに認識しています。

参加された方々のプロフィールというか、年齢とか性別とか、そういうものは、何らか整理されているのでしょうか。

○齋藤麴町地域まちづくり担当課長 ご質問の年代、性別、あと、番町地域との関わりというところで分析してございます。

年代のほうですけど、基本的には、一番多いのが70代の方で3割で、それに続いて、50代が2割ぐらい、あと、40代、60代が10から15%といったような状況でございます。主な概要はそのような形です。

性別に関しては、男性、女性、大体、ここは、6割、4割ぐらいの比率でございます。あと、番町との関わりでございますけど、おおよそほぼ8割以上の方が在住されている方という形でございます。

以上でございます。

○春山委員 ありがとうございます。まず、在住の方々が多かったというのは、あれだけの人数が在住者8割というのは、とてもよかったのかなという印象です。会場はやはり少し年齢層が高いなというふうに思いました。お子様連れが本当に少なかったのも、その辺の、やっぱり多様な方々の意見を聞くということがすごく必要になってくると思うので、その辺の告知の方法とかは、今後、次の回にかけて見直しをされたほうがいいのではないかと考えています。

というのは、心配事の解消がメインのテーマだったので、やっぱり心配事を抱えていらっしゃる方が多く発言するというのは、もう会の目的がそのものがそれだったので、特定の方々が心配を今まで持たれてきたことをお話ししたいという意味では、そういう方々の何が心配なのかということも聞いたのもよかったのかなと思いますが、次の未来の共有ということを軸にしたときには、やはり心配事がない方々は、この会にはほとんどいらっしゃらなかったと、発言されなかったと思うので、そうでない方々のこうあってほしい未来の共有という会を、しっかりと、次、立てつけをしていただきたいと思います。その辺りはいかがでしょうか。

○齋藤麴町地域まちづくり担当課長 委員のご意見のとおり、アンケートでも、そういった、やっぱり未来を語る場が欲しいというご意見も寄せられております。1回目が少しくローズではございますけど、少し番町の未来を語り合う場といったところで、少しバランスを取って、今回違うテーマでやらせていただいたところでございます。第3回目につい

令和7年10月14日 環境まちづくり委員会（未定稿）

では、ある程度具体の計画がないと、なかなか心配、ご質問解消につながらないと思っておりますので、そういった計画が出てくれば、心配事を解消する場面にもつながるでしょうし、また計画が具体化して、皆さんイメージを共有されることで、わくわく感というか、また次の、その計画を生かしてどういうふうにやっていこうという、未来を語る場にもつながっていくと思っておりますので、そういった両方の視点を踏まえて、多様な意見を聞きながら進めていきたいと思っております。

○春山委員 その上で、2点お伺いさせていただきたいと思っております。

まず1点目なんですけれども、区側で地域が本当に公共貢献を望んでいるのかということ、区のほうはこの公共貢献をまちが望んでいるんだという意識というか理解はどの程度されているのか、お伺いしたいなというふうに思っております。公共貢献が要らないという声も多かったと思うんですけれども、それは心配事の中で出ていると思うんですが、本当に次回の未来の共有の中では、地域が望んでいる公共貢献はこれだから、区としてはこういう計画なんですということをやっばりはっきり言えるような立てつけをきちんとつくっていく必要があると思うんですけれども、その把握も含めて、それが地域は望んでいるのかということについてどう思われているか、お聞かせ……

○齋藤麴町地域まちづくり担当課長 この日本テレビの計画で、公共貢献として、駅との接続のバリアフリー化だとか、地域で不足している広場の整備だとかというようなところがメインとなっておりますけど、基本的にはこれまで都市計画手続を通じて、いろんな反対というか心配事のご意見も頂いておりますけど、一方で賛成というご意見も多数頂いているという中では、やはりこの地域貢献というのが必要なんだというのは、十分区としては認識しているといったところでございます。

今後こういったまちづくりのシンポジウム、今回の第2回の事前意見の募集の中でも、今回、主な意見の中では、これは抜粋ではございますけど、やはりこの計画が遅れていくことで、なかなか地域課題が解決していかないというご心配、そういうご心配も頂いておりますので、かなり早く進めてほしいというご意見もあるんだなということが、このシンポジウムの意見募集も含めて把握させていただいたといったところでございます。

○春山委員 この皆様が持たれている心配事、ごめんなさい、私的には大きく三つに分かれているかなと思っております。一つが、もう計画が出てこないと解消できない心配事。それは計画案が出た段階で議論していきなり意見交換していきべきことだと思う。もう一つが、先ほど申し上げた公共貢献の在り方をどう考えていくのかというところがもう一つで、最後に、かなり議論になっていたところがエリアマネジメントだと思います。エリアマネジメントという言葉と、プロパティマネジメントと、コミュニティマネジメントは、言語が錯綜していると。議論の中でのエリアマネジメントという用語は、皆さんエリアマネジメントと使いながら、指しているものが違うということが多々あったのではないかと思います。この二番町の計画のところエリマネ棟と書かれているというところに、ということ、番町の森と庭を今運営受託している企業さんが、ホームページにも番町エリアマネジメントと書いていると。

そうすると、それが駄目とは全然言わないんですけれども、もともと商業業務地のエリアマネジメントをやってきた運営委託している会社さんが、番町全体をマネジメントしますというふうに捉えられてしまうというところの、そのエリアマネジメントの用語等、誰

令和7年10月14日 環境まちづくり委員会（未定稿）

が何をマネジメントするのかというところをやっぱり交通整理していかないと、いつまでたっても日テレさんのエリマネ棟は住環境にふさわしくないマネジメントになるんじゃないかと。そこがまた番町全体も考えているのかと。そうすると、住環境を全然考えていないのに番町のエリアマネジメントをしているというふうに捉えられていくと。そういう事実の、それぞれの事実に基づかない不安というか、やり取りがやっぱりすごく続いていくのではないかと思うので、その辺はプロパティマネジメントなのか、どこを対象としたエリアマネジメントなのか、誰が何のマネジメントをするのかというのは、そろそろ交通整理なり、それは住民の方々を交えたエリアマネジメントとは何かという勉強会も含めて、しっかりと用語の整理をしていくことが必要ではないかと思いますが、その辺はいかがでしょうか。

○齋藤翹町地域まちづくり担当課長 委員ご指摘のように、第2回シンポジウムでも少しエリマネの議論になって、それをイメージされているものが共通認識としてなっていないかというのがあるのかなと感じてございます。おっしゃるように、プロパティマネジメント、あそこの日テレさんの計画の中でできる、広場だけを活用して、そこでイベントを開くのがエリアマネジメントなのかということ、そういうわけでもなくて、やっぱりエリアマネジメント、地域の付加価値を高めるために活動していくことなんで、そのツールとして広場とかエリマネ棟があるということだと認識してございますので、まずはそういった関係者で共通認識を図るということが非常に大切だなと思ってございます。

おっしゃるように、商業エリアマネジメントと、このエリア、商業地に隣接して住宅地ということもございまして、そういったことも配慮しながらこういった活動をしていくのがいいのかということも、非常に大切な視点なんだなというふうに思っておりますので、エリアマネジメントって少し、一言に言いますが、いろんな目的とか活動、あるいはおっしゃるようにこういった範囲でやるのかということのを、今後、日本テレビさんも含めて交通整理した上で、地域の人たちとも検討していこうかなと思ってございます。

○春山委員 ぜひその辺り、しっかりと、交通整理も含めて、関係者と言語の共有も含めてやっていていただきたいと思っております。

添付の資料にある都市計画用語解説のところのエリアマネジメントも、美化・緑化、安全・安心な地域のまちづくり、③イベントの開催、④観光客の誘致など、一般的なエリアマネジメントの要望をここに載せられたんだと思うんですけども、多くは開発に伴う商業業務地のエリアマネジメントが、皆さんイメージされやすいと思うんですけども、海外は住宅地のエリアマネジメントなり、そういう住環境を守るという意味でのエリアマネジメントの事例もたくさんあるので、そういうところも情報共有していただきながら、番町に合ったエリアマネジメントは何かということのを、やっぱり住民の人たちと共有できるような形を進めていただくのがいいかなと思っておりますが、いかがでしょうか。

○齋藤翹町地域まちづくり担当課長 そうですね。ちょっと千代田区内でもいろいろ商業業務地でのエリアマネジメントを多数やってございますけど、こういった番町のところは初めてのような試みですので、いろんな先ほど言われたような先進事例も研究しながら、検討を進めたいと思っております。

○桜井委員長 はい。ほかにありますか。

○小林委員 番町次世代シンポジウムの開催を9月20日に行いましたけど、この中で、

令和7年10月14日 環境まちづくり委員会（未定稿）

目的、昨年決定した地区計画の内容を確認する。番町の後ろ向きな未来を回避する。二番町再開発に対する疑問や心配事を解消するということが目的だったんだけど、僕、何回もお願いしていただけれども、イントロダクションで、ここに入ってあるシンポジウムの目的や流れの確認、地区計画の概要説明と書いてあるんだけど、基本的にお願していたところ、二番町計画の附帯決議文、これを出して説明したんですか。

○齋藤廻町地域まちづくり担当課長 説明したかどうか、資料を出して説明したかどうかということで申しますと、附帯決議自体は出していません。シンポジウムの開催の趣旨として附帯決議のことも触れさせていただいたといったところ。で——よろしいですか。あと当然、この番町次世代シンポジウムの開催に当たりまして、事前の募集のときに、地区計画のこれまでの経緯とか、あるいは附帯決議という資料もつけながら募集したといったところでございます。

○小林委員 だからね、これ、役所がやらなくちゃいけないことというのは、場をつくるという。何の場をつくるかという、いろいろな、賛成する人は進めるからいいのよ。いいということは当然いいんだけど、反対する人にどう理解していただいて、一緒に進めてもらえるのかというのが目的なのよ。みんな理解していただくというのが。その中で、何で今みたいな、基本的な部分ですよ、これ。都市計画審議会だってすんなりぱっと通っちゃったわけじゃないんですよ。だから附帯決議がついたわけですよ。その附帯決議の重さを役所というのはあんまり重大視していないと見えちゃう。見えちゃうというか見えています。

これ、附帯決議に書いてあることはすごく基本的なところでしょ。意見の対立により地区の住民を二分するような事態が長期にわたって継続しています。この対立状態が継続して深まっていくということは、地区内の住民にとって、良好な市街地環境の形成または保持のための計画という地区計画の本旨を全うする上で望ましいものではありませんと言っているんだよ。地区計画を一生懸命説明したって、ここで、概要を説明したら、この地区計画に対して附帯決議がついているんだから、この附帯決議を説明しないと、要するに紙を渡しましたというんじゃなくて、ここのところを説明しないから、そういうふうに反対の人がまた疑問を持ちちゃう。ここのところを徹底的に、言っていますよ、千代田区当局に対し、区の融和を図るため、次の事項の実施を要請しますと。全て関係者がこの問題に関し前向きに話し合える場づくりを協力することを切望しますとつくったんでしょ。

それで、1、事業の具体化に当たっては、地区内の融和に向けて、事業者・関係住民・関係機関などと共に真摯な努力を重ねる。その次ですよ。2番、地区計画の決定事項である高さや容積率はそれぞれの上限を定めてあるもので、事業者が地区の要望を受け止めて、上限に対してゆとりを持った計画内容とすることを妨げるものではない。この建物の設計段階においては、その可能性について事業者と十分に協議すること。

これは何を言っているかという、初め120メートルとか150メートルが出ました。120メートルになりました。90メートルにしようかなといったら80メートルに決まりました。でも、まだ高いと思っている人はいる。60メートルだから、そもそもが。でも80メートルになったんだけど、ここで言っていることは、80メートルにしたんだけど、ここだって80メートルいっぱい使ってやっていいよというんじゃなくて、可能性としては80メートルまでちゃんとキャップは閉めたんだけど、よく考えてね、みんなと話

して、という話だと思うんだけど、可能性についてと言っているわけ。可能性もありますよというようなところも話していかないと、その話は80メートルですよといったら、キャップをしまったという、出てこなくなっちゃうから、こういうところの説明をしっかりとしなくちゃいけないんですよ。そこで、関係者の納得が得られるような真摯な努力をし、と書いてあるんですね。変更の手續に遺漏がないよう慎重に進めることと。

この要するに決議、附帯決議、ここが基本で行かなかつたら、そりゃいろいろやっぱり出てきますよ、幾ら説明をやったって。地区計画の説明をやったって。それに条件がついたんだから。附帯がついたんだから。その附帯をしっかり説明しないでこのシンポジウムに入れば、これは理解されないところが何人か出ちゃうのよ、何人か。全員分かれとは言わないよ。だけど皆さんが立腹して、いいまちをつくって進めようとしているときに、基本の部分をカットしちゃ駄目よ。

これは、次やるときには、ここの決議、要するに附帯決議については、みんなが理解するような形で、この後でもいいです。資料を配るときには、こういう地区計画には附帯決議がついて、この附帯決議をご理解くださいぐらいなものをつけないと、これからまた問題がうまく解消していかないと思うんですよ。その辺の見解はいかがですか。

○齋藤麴町地域まちづくり担当課長 ちょっと附帯決議自体は重たいものだという認識は区としてもしてございます。当日、こちらの附帯決議の内容を一言一句説明はしませんでしたけど、融和を図るための前向きな場づくりという、そもそも何でこれを、こういうシンポジウムをやっているかという趣旨は我々も重く受け止めていますので、説明させていただいているところでございます。

また、当日、ファシリテーターも都計審の委員でございましたので、都計審の委員からも、地区を二分しているような事態を招いて、それでこういった附帯決議を出したんだよというところを都計審の委員からも説明させていただいておりまして、説明はしてございますけど、このペーパーは出していないといったことではございますので、ちょっとこの結果概要の公表方法については、また、どのようにするかということを検討させていただきます。

○加島まちづくり担当部長 小林委員が言われるところは大事だと思います。いよいよ次回、計画を出してもらおうという形になりますので、その際に改めてちゃんとしっかり、経緯含めて附帯決議を説明させていただきたいなというふうに思います。

○小林委員 そのこのところが一つまたちょっと質問したいんですけども、基本計画と与件整理について。与件の整理。与件。与件するわけです、いろいろなことを。その与件と基本計画、今、基本計画を出してから、出してからと言うんだけど、基本計画というのは基本的には与件整理ができて出すのが普通だと思いますよ。要件整理もできていないのに基本計画だけ出して、どこが悪いんでしょうなんて言ったら、与件、こういう与件があるよと出していたじゃないかということになるんで、今の時点で与件整理の与件というのはどれぐらい与件しているのか、具体的に出してください。

○齋藤麴町地域まちづくり担当課長 与件整理というのは、基本計画を立てる上で、地域の方々はどういった心配事があるって、それに基づいて、それに配慮して日本テレビさんに計画してほしいということなんで、今回いろいろご心配事を頂いて、それに基づいて、当然、今回、日テレさんも先ほどのとおり参加していただいたということですので、それに

令和7年10月14日 環境まちづくり委員会（未定稿）

基づいて基本計画を立てていただくということで、今回そういった与件整理というか、心配事を伝える会とさせていただいたといったところでございます。

あと当然、事前の意見の募集もありましたし、当然これまで頂いた都市計画の手続の中で、地域の方々から、今後の地区計画だけじゃなくて、今後、基本計画を立てる上で、いろんなこんなことを配慮してほしいというご意見もあったので、そういったことを盛り込んで今回心配事のほうに入れ込んで、日本テレビさんに伝えさせていただいたということです。

○小林委員 それはよろしいことなんですけど、それを役所なり日テレさんが整理しちゃったら、それは整理されちゃったことになるんで、そうじゃなくて、どういう与件が出ているのか。それが対一でどこに基本計画に入っているのかというような正誤表みたいなのがないと、与件を整理したことになる。勝手に整理しちゃ困るんですよ。勝手に整理されちゃうと住民がまた不安に思っちゃうだけで。その与件を整理する際には、基本計画と与件の関係がなくちゃ駄目なんです。

そこでちょっと、こちらは頂いた二番町計画の検討ステップ、これを出しましたよね。これはどこが出したの。ステップはどちらが出したんですか。

○齋藤翹町地域まちづくり担当課長 千代田区のほうで。

○小林委員 ですよ。

○齋藤翹町地域まちづくり担当課長 地まち課のほうで出して。

○小林委員 千代田区でこんなすばらしい。さすが部長、いいものを出しているんですよ。そこに何と書いてあるかということ、前向きに話し合える場の検討・設置ということで、与件整理というのがあって、その下に基本計画6か月以上と書いてあるんですよ。基本計画を6か月以上、与件を整理しながらやりましょう。協議をしながらやりましょうというのを、千代田区が作ったペーパーですよ、千代田区が作ったペーパー。そのようになっていますか、今。お答えください。

○齋藤翹町地域まちづくり担当課長 与件の整理でございますけど、今回配らせていただいた配付資料のこれまで寄せられた心配事なんですけど、その中で、心配事と心配事への見解という形で、このようにまとめるという形に、今後……

○小林委員 しますよね。

○齋藤翹町地域まちづくり担当課長 ええ。当日はある程度ばーっと意見を書いたんですけど、今後、結果概要として公表する資料としてまとめていくといった形で、心配事に対してじゃあどういふ対応をするのかという形でまとめていきたいという形で整理していきたいと考えてございます。

○小林委員 整理をしていただきたいんですけど、それが基本計画のどこに反映しているのかというのが分かるような、これだけ、整理しただけだと、整理しただけで、区が整理しました、で終わっちゃうんです。それがいかに基本計画に反映しているかという、この関係性というのを示さないと、整理は終わりましたけど、基本計画に反映しませんでしたとやるつもり。その辺ちょっとちゃんと、だから先ほど言ったように、基本計画と与件整理されたものを目に見える化して、そこがこのように基本計画に反映されていますよというのを繰り返し繰り返しやるから6か月以上もかかるのよ、ここで。それは千代田区が考えている、出している、要するに工程でしょ。そこのところをやっぱり丁寧にやらな

いといけないんですよ。その辺はいかがですか。

○齋藤翹町地域まちづくり担当課長 一旦、心配事への見解、先ほどのとおり整理させていただいて、次のシンポジウムとかでしっかり計画説明がございますので。それで、今回整理した心配事の整理表と併せて、どういう対応になったかというのを、これをバージョンアップしながら、次のステップに行くのかなというふうに考えてございます。

○小林委員 じゃあ、ちょっとまとめます。そうすると、まず次のシンポジウム、3回目をやる時には、やるまで、もしくは3回目のときにもそうなんだけど、附帯決議は皆さんに分かるように示してください。これが一つ。それから、今やっている基本計画をお出しになると言っているんで、その基本計画がいかに問題点を要するに整理されて、与件の整理をされて、それが基本計画に生きてきている。どこが生きてきているかという、分かるような説明を次のところではしていただくようにしていただきたいんですけども、いかがですか。

○齋藤翹町地域まちづくり担当課長 回目のシンポジウムの件で2点頂いています。附帯決議についての説明と、あと、今回整理した与件整理、心配事の整理に対する見解と、それに併せてどう基本計画に反映していくことが分かるような整理ということで、その2点について、次回シンポジウムで対応していきたいと思えます。

○桜井委員長 はい。ほかに。

○岩田委員 最初にあったの、まず周知方法の話ですよ。また次回のときは、今回みたいに百何十種類か二百何十種類あるチラシのうちのたった1枚のチラシを、1枚というか、たった1部のチラシをぽんとそこに置いて、置きましたというようなやり方じゃなくて、だから結局あれは、30部置いたけども、2部しか取る人がいなかったと。そういうようなやり方じゃなくて、もうちょっと皆さんに教えるようにやっていただきたい。

あと、先ほど小林委員がおっしゃっていた附帯決議の話。ペーパーをお出ししなかったというような答弁だったんですけど、いや、それだけじゃなくて、触れただけですから、あくまで。附帯決議の内容じゃなくて、ただ、附帯決議があつてみたいな話で、細かい話まではしていないですからね。だからそれをやはり心配されているんだと思うんですよ。次回は未来を語る場もあればとおっしゃっていましたが、まず心配事を取り除かないと、未来を語る場も何も無いと思うんですよ、正直。

そしてあと、この資料で、これまでに寄せられた心配事というので、08-03-05とあったと思うんですけども、当日何だ、ホワイトボードか、何かスクリーンかなんかに映して、じゃあこれはもう解消されましたねみたいな、書いたじゃないですか。ああいうのも反映してここに頂けると、分かりやすいと思うんです。

そしてあと、工事が遅れることによって心配が解決しないというようなことを何か言っていましたけども、これって結局、そういう何か情報がなかなか出ないので、心配が解決しないんじゃないですかね、正直。先ほどの附帯決議にしても何にしても、皆さんが知りたいこと、先ほど小林委員がおっしゃっていた、80メートルが上限だと言って、じゃあそれ、80が上限で、80メートルになるんじゃないかと、どうなるのかというような意見を聞くとか、そういうような話がまだできるんだよということも説明しなきゃいけないと思うんです。

あとは、計画が分からないと懸念事項も分からないということなんですけど、これとい

令和7年10月14日 環境まちづくり委員会（未定稿）

うのはどこから出た声なんでしょう。

○齋藤翹町地域まちづくり担当課長 1点目は周知方法のことだったと、認識でございます。今回もアンケートで、周知方法について、こういったそのほかの周知方法のご意見もございましたので、そういったご意見も踏まえながら周知の工夫をしていきたいと考えてございます。そうですね、附帯決議についても説明を次回していきたいと考えてございます。

次回、第3回のシンポジウムで、心配事が解消しないと明るい未来も議論できないんじゃないかというご意見でございましたけど、地域には多様な意見がございますので、せっかく計画が説明される時点で、単なる心配事の解消だけじゃなくて、こういったようにまちを前向きに変えていきたいという、そういった方々もいらっしゃいますので、バランスを取りながらプログラムしていきたいと思っております。

3番目に、この心配事に書かれた以外に、当日出てきた意見の反映という形なんですけど、こちらについては、今後、結果概要を公表していく段階で、そういったご意見も加筆しながらこの対応表を公表していきたいと思っております。

○桜井委員長 岩田委員。

○岩田委員 あ、まだ。すみません。すみません。

○桜井委員長 あ、失礼。

○齋藤翹町地域まちづくり担当課長 あと、なかなか知りたいことが分からないんじゃないかといったご意見ですけど、区のホームページももう既に第2回シンポジウムの資料等を公表してございますけど、区のホームページも工夫して、日テレさんの、シンポジウムの当日にもご意見がありましたけど、いろんな日テレさんの開発に関するQ&Aなものを日テレさんのホームページに掲載しているんですけど、区のホームページからもある程度すぐ飛べるようにしたりとか、そういった工夫をしながら情報共有や周知を図ってきたいと思っております。

○加島まちづくり担当部長 最後のたしか質問に、計画が出ないと、解消ということで、当日もそうですし、心配事のもともともらっているやつに、風だとか日陰だとかそういったところのお話もやはりあったと。その中で、コメンテーターの先生が、やはりそこは建物の計画が出ないとなかなか説明できないよねというお話があったので、計画が出ないと、というようなことになっております。

○岩田委員 ありがとうございます。よく分かりました。

先ほどの未来を語る場の話で、心配事ばかりじゃなくて、明るい未来も語りたいたいということなんですけど、そこは当日の皆さんに聞いてみるのが一番よろしいと思います。一応そのときは、明るい未来、明るいというか、未来を語る場と言っているながら、でも皆さんが、いや、そういうんじゃないかと、心配事をもうちょっとやってくれよというような話があったら、やっぱりそういうふうになんか柔軟に対応するとか、そういうのもされたほうがよろしいんじゃないかなと僕は個人的に思います。

あと、先ほどの08-03-05の話で、今後、順次書き込んでいったものを出すということなんですけども、せっかくこの前シンポジウムをやったんで、その直後の委員会なんで、それを、当日いらっしゃらなかった方もいるので、皆さんにお見せするという意味でも出して、それで皆さんに議論をしていただくというほうがスピーディーでいいんじゃない

ないかなと思っただけです。

そして、基本計画のことなんですけど、この基本計画というのは日テレがやるんですよね。これというのは区から要請するものなのか、日テレの都合でつくるものなのか。どうなんでしょう、これって。

○齋藤麴町地域まちづくり担当課長 基本的には基本計画というのは、日本テレビさんが今後の計画、建物を建てる上で基本計画を立てるものでございます。なので主体は日本テレビさんなんですけど、そのために地区計画、先ほどの附帯決議を踏まえて、区としてもいろいろご意見を頂いていますので、そういった心配事を踏まえて計画を立ててくださいよという形で、シンポジウムを開催したといったところでございます。

○岩田委員 ありがとうございます。

そして、その資料も、当日、前に出した資料、前に出して説明されていた資料と皆さんがもらった資料が、違うということはないですけど、なかった。前に出している資料を見た方が、何だ、ここ、全然ないよ、資料、と。どれ、というふうに探すというか、そういう場面があったので、前に出すんだったら手元にも欲しいんですよ。だからそこは次回はちゃんとしていただきたい。

というのと、そうですね、今後、この、先ほど検討ステップとあったじゃないですか。二番町計画の検討ステップ。これもお出ししたほうがよろしいんじゃないかなと思います。一応それはお願いします。

○齋藤麴町地域まちづくり担当課長 そうですね。失礼しました。資料、投影したものと配付資料が少し違ったということで、こちらとしては内容としては一緒のものですけど、分かりやすく投影したものを工夫したんですけど、今後、次回以降、ちょっとその辺は気をつけてやっていきたいと思います。

資料のほうも、先ほどの、そうですね、検討ステップのほうも、今どういう段階なのかというのを分かりやすく参加者に伝えるような資料工夫をしていきたいと思います。

○岩田委員 最後で。

○桜井委員長 はい。最後。岩田委員。

○岩田委員 日テレの環境影響調査というのが公表されたんですよね、何かようやく。その説明会をするべきなんじゃないかなというような声を頂いているんですけど、それについてはどうなんでしょう。

○齋藤麴町地域まちづくり担当課長 恐らくそれは都市計画のときに、環境影響評価というか、交通量のことをやったんだと思います。なので、改めて今これは公表されたものではない。先ほど申したとおり、日本テレビさんのホームページで開発計画のQ&Aが載っていますので、そこで以前から、そういった交通量の話とか、どうなっているんですかというQに対して、Aがこうなっていますということを説明しているといった資料が公表されてございます。

なお、具体的に、さっき私も答弁の中で申しましたが、風の影響とかは、今後、具体的な計画をつくっていかないと、なかなか精緻にできないですので、そういったことも含めて第3回のシンポジウムで説明していくのかなというふうに考えてございます。

○岩田委員 ふーん。

○桜井委員長 はい。よろしいですか。よろしいですか。

送付6-26、38、39、送付7-5、7、16、17、29、30 陳情審査部分抜粋：

令和 7年10月14日 環境まちづくり委員会（未定稿）

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○桜井委員長 はい。それでは、この件についての質疑は終了します。

9本一括で行って来ました。扱いについて、委員の皆さん、いかがいたしましょうか。

〔「継続」と呼ぶ者あり〕

○桜井委員長 継続でよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○桜井委員長 はい。それでは、継続とさせていただきます。